

# 講演会『身近なところから考える生物多様性』聴講メモ

\*\*\*\*\*

講師：境原達也氏（NPO すぎなみ環境ネットワーク、東京オオタカ保護連絡会）

日時：2013年12月7日13時30分～16時 場所：田無公民館

主催：田無3・4・7を考える会、共催：市内環境8団体 公民館市民企画事業

\*\*\*\*\*

境原さんは普及開発委員長を務めておられる（1）すぎなみ環境ネットワークにおける環境保全活動と（2）事務局長をされているオオタカの保護活動について講演されました。



## （1）杉並区の環境保全活動についての 広範囲な活動について

沢山のスライドを使って説明されました。いづれの活動も当市では見られないスケールの大きい活動の経験に聴講者は圧倒されました。

特に、小・中学校などの総合学習の時間で実施される「環境学習」を積極的にサポートし、区民ボランティア、学校の担当教師、区役所をうまくコーディネートし、企画段階からサポートしている活動が生き生きと語られました。

特に感銘を受けたのは、善福寺川がつなぐ 人・水・命・子どもプロジェクトで、トンボのヤゴ、カエルの救出など身近な生態調査から始まり、自発的な川の清掃活動、そして学校ビオトープ造りへの着実な展開でした。

そしてこれらの活動が毎年新しい学年に継承されるようになっているそうです。

子どもの時代に体験した自然環境に対する驚きや発見は、その人の生き方を変え、やがて社会を変える可能性を秘めており、それに環境教育の役割が大きいと言われますが、「すぎなみ環境ネットワーク」の活動は全国的な環境団体の中でも高く評価されているそうです。

## （2）東京都の土地開発からのオオタカの保護活動

オオタカの保護活動は、時間の制約から永山北部丘陵開発計画と横沢入開発計画の2件が紹介されました。いずれもオオタカが営巣する自然林を住民と一緒に実証的に粘り強く運動を続け、経済などの状況にも恵まれ結果的には、土地開発を抑えて都や市の運営する公共の目的使用にすることに成功された例でした。

オオタカの棲む東大農場を有する当市として羨ましい思いで拝聴しました。ところで今、開発業者の圧力などで、環境省がオオタカの絶滅危惧種指定の解除を諮っており、要警戒です。講演の後で地域活動に関する質疑討論、例えばどのようにして学校の先生を運動に巻き込むかなど、が活発に交わされとても有意義でした。ただ、当日は地域での種々の行事が重なったこともあり、参加者が若干少かった（21名）のがちょっと残念でした。



## 講演会に参加して

南町 落合ヒデ

講演が始まるとスライドとDVDを映しながらの講演に引き込まれる、このような小学生・中学生に自然への関心が高まることは望ましい事だと思い、またこのように発展させる力の基は何処にあるのか。実践と学習が相まって進められる活動は、いくつもの小学校に広めていく活動の基になるのは何だろうと考えていた。

心ある教師が先か、それともその人を助ける補助員か、父母（保護者）かと考えてしまった。とても魅力的に話される境原さんの様な方が各地におられたら、自然環境に対する活動も活発になるだろうし、行政の支援も大きいと思う。身近な川への関心、実際川に入で川に入るための装備、衛生対策、安全対策など自己管理を学び、主体的に川と向き合うきっかけになったこと、また、その川で拾ったゴミ問題に関心を持つ、映像を使い事細かに説明されました。

プールでのヤゴの救出作戦、ビオトープの実践、（ビオトープは動植物が棲息し、子供の心も育つ場所）など豊富な内容の講演でした。

◎ 善福寺川に関する環境学習で井荻小学校の成功例の要因は、  
・学校〔校長〕の環境学習への姿勢、 ・先生方の意欲と努力 ・  
学校支援本部の協力と力・サポート側の人材確保など 私も心から納得しました。

